

SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) 2022 年度第 3 回分科会 (第 21 回ワークショップ) 開催

2022 年 11 月 21 日、SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) の第 21 回ワークショップがオンラインで開催され、参加大学 23 校から 54 名が出席しました。本ワークショップでは、「SDGs カリキュラム」、「大学評価・アカウントビリティ」、「大学間等連携」、「マネジメント」という 4 つのテーマに分かれて第 3 回目となる分科会を開催し、前回取り上げた議題について引き続き議論するとともに、3 月に行われる公開シンポジウムでの総括討論会に向けた準備を行いました。各分科会の議論概要は次の通りです。

・SDGs カリキュラム分科会

昨年度開発したオンライン教材「国連 SDGs 入門」の追加内容について話し合いが行われた。北九州市立大学は、国連の公開情報を利用したデータベースの使い方に関するカリキュラム作成を試みていることを報告した。昨年 10 月から集中講義を開始している「国連 SDGs 入門」だが、ノートルダム清心女子大学からは 100 名程の学生を対象に対面形式の通常授業として実施した例が報告され、教材動画を視聴してからグループ討論を行い、レポートが提出されるまでの具体的な授業の様子が紹介された。今後、大学間の連携によって作成した本オンライン教材をどのように維持し、次に繋げていくかという課題が挙げられ、紙媒体の教科書として出版することも示唆された。3 月の総括討論会ではこれまでの議論を踏まえた目標項目を発表する予定である。

・大学評価・アカウントビリティ分科会

岡山大学と筑波大学が、それぞれの取り組みの優良事例について報告を行った。岡山大学は、2022 年に「国連教育変革サミット」および「ユネスコ・チェア・プログラム 30 周年記念会議」という 2 つの国際会議に参加したことを紹介するとともに、地域と世界を結ぶ Global Good に貢献する大学として、SDGs 大学経営の推進、国連と大学との連携強化、若者の参画など多角的な取り組みを行っていることを説明をした。筑波大学は、2022 年 4 月に再組織化された Design the Future 機構における、情報発信、人材育成、地域連携、社会実装に関わる取り組みについて報告し、SDGs を推進をしていく上で学生を巻き込んだ取り組みやプロジェクトマネジャーの育成を課題として挙げた。続いて上智大学より、The Times Higher Education (THE) インパクトランキング 2022 の SDG 項目において上位に選ばれた世界の大学の取り組みや動向について解説が行われ、学生主体の取り組みの重要性、他大学との協力や企業との共創、SDG-UP での議論の発信強化などについて議論が交わされた。3 月の総括討論会では、THE インパクトランキング 2022 の分析結果の報告を中心に、これまでの分科会で提起された課題について発表を行う。

・大学間等連携分科会

前回までの議論を振り返るとともに各大学から近況報告を通じて連携の鍵となる共通点を模索した。また、SDG-UP 参加大学を対象に各大学の具体的な連携に関する取り組みについて、活動の主体者、活動のテーマ、他大学との連携、連携の進捗状況などに関する設問を盛り込んだアンケートを行い、その調査結果を3月の総括討論会にて発表する予定である。今後、活動のリンク先や連絡先を集約して各大学の最新状況が共有できるような仕組みづくりを行い、将来的には情報を取りまとめるウェブサイトなどを通じて発信を行っていくことが話し合われた。さらに、大学間の連携につながる可能性の高い事例については、中長期的な連携強化を目指すことが確認された。

・マネジメント層分科会

9月の中間報告において、大学との関わりを強めて一体感・共感を醸成する「エンゲージメント」が重要であると確認されたことを踏まえ、幅広いステークホルダーとの関係性を強め、より開かれた大学経営を行うことを目的とした各大学の取り組みが共有された。その具体的な事例として、教職員の「エンゲージメント」を強化する組織の整備、未来の大学生である小中高生を意識したSDGsに関するカリキュラムの充実、学生会議の招集やSDGs分野でのリサーチにおける学生職員の登用といった現役生の効果的な活用、および出張講義を通じた地域連携などが挙げられた。また、SDGs経営を導入するにあたって、資金調達の方法だけでなく、ダイバーシティ（多様性）に配慮し、特に女性の活躍の場を確保することが重要であると確認し、トップダウンの改革に加え、広く全学に対して理解を求める努力、そしてその可視化が重要という意見が共有された。3月の総括討論会では、「エンゲージメント」推進のために、誰を対象にいかに取り組むのか、そして、大学のトップマネジメントは何をなすべきかについて議論する予定である。

SDG-UP アドバイザーである関西学院大学総合政策部の村田俊一教授は、各分科会における議論を振り返り、「SDGsカリキュラム」については、昨年開発したオンライン教材のカリキュラム改良が行われている点を評価し、プログラム修了証の発行を進めるとともに総括討論会でプロジェクトの方向性を確認するよう強調しました。「大学評価・アカウントビリティ」に関しては、岡山大学と筑波大学が行った優良事例報告を奨励し、インパクトランキングを用いた世界の大学の動向分析が今後への問題提起につながることに期待を寄せました。「大学間等連携」が計画している参加大学へのアンケート調査とウェブサイトでの情報発信は、非常に有効だと評価しました。「マネジメント」は、総括討論会で誰を、どのように、何を働きかけていくのか明確にし、リーダーシップのあり方などについて忌憚のない議論が交わされることが望ましいと述べました。

これらの議論に基づき、村田教授は参加大学がチェンジ・エージェント（変革の推進者）

として力を合わせ、国内の大学においてさまざまな改革を進めていって欲しい、と述べてワークショップを締めくくりました。

参加大学 23 校（アルファベット順）

広島大学

北海道大学

国際基督教大学

国際大学

金沢大学

慶應義塾大学

関西学院大学

奈良教育大学

ノートルダム清心女子大学

お茶の水女子大学

岡山大学

沖縄科学技術大学院大学

大阪医科薬科大学

大阪公立大学

大阪大学

龍谷大学

創価大学

上智大学

東海大学

東京都市大学

東京工業大学

東洋大学

北九州市立大学